様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２２年６月 25 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：１８５２０１５６

研究課題名（和文）　室町期を中心とする天台宗寺院の学芸に関する基盤的研究

研究課題名（英文）　A study on the learning at the Tendai-sect temples in the Muromachi period.

研究代表者

齋藤　真麻理（ＳＡＩＴＯＨ ＭＡＯＲＩ）

国文学研究資料館・文学形成研究系・准教授

研究者番号：５０２８０５３２

研究成果の概要（和文）：天台僧の学芸について、外典類をも視野に入れ、調査研究を行った。類代集や室町物語との関連など、より広い視野に立ち、法華経注に収録される多数の説話や和歌等についてその形成と享受の実相を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In order to study the cultural activities of priests of Tendai sect, their works including the non-Buddhists texts were researched from a viewpoint of the relation to literary works such as Ruidaishu and Otogizoshi. Through this study, the actual state of formation and interpretation of a large number of tales and Japanese poems recorded in annotation books on Hokekyo was clarified.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2006 年度	700,000	0	700,000
2007 年度	700,000	210,000	910,000
2008 年度	600,000	180,000	780,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総　計	2,700,000	600,000	3,300,000

研究分野：国文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：①国文学　②宗教学　③日本史

１．研究開始当初の背景

近年、中世文学研究においては古今集注など多様な注釈書の重要性が指摘されている。法華経の注釈書もそうした資料群の一つであり、豊富な説話や和歌、慣用句などを含むことから、説話研究・仏教文学研究の立場からも注目を集めてきた。代表的な資料として、『法華経直談鈔』『法華経鷲林拾葉鈔』の影印が刊行されており、申請者もその学恩を蒙りつつ、より古い法華経注『一乗拾玉抄』の影印と研究書を刊行した。その後、『直談因縁集』も出版されるなど、法華経注を素材とする中世文学研究は隆盛を見せている。しかし、資料調査は叡山文庫や日光天海蔵をはじめ、天台の内典を集中的に所蔵する文庫に集中する傾向があった。申請者はそれらの特殊文庫の調査成果を既に蓄積しつつあり、その成果を活用して、より広い視野に立った法華経注研究、ひいては室町学芸の研究を目指すこととした。

２．研究の目的

法華経注は日本文化史を考える上でも貴重な資料群であり、中・近世の説話享受の実態を伝える好資料ともいえる。

本研究は、天台関連資料を所蔵する寺社・文庫を対象に、資料の実態把握につとめる。それらの成果に基づき、天台僧の学問的営為、法華経注の成立事情、そこに収録される多数の説話や和歌、慣用表現等について、形成と享受の実相を解明しようとするものである。

３．研究の方法

叡山文庫のほか、天台関連資料が伝来する関東地方の寺社、また、調査が行き届いていない中・四国地区の寺社について、資料の実態を把握し、その調査研究を行う。仏教書、文学資料のみならず、近世の地誌なども調査対象とする。

４．研究成果

研究対象を内典に限定せず、天台僧が活用したと思われる外典をも視野に入れて調査を行った。

中国地方随一の天台宗寺院としては、鳥取県大山が挙げられる。この名山に関わる室町物語『伊豆国奥野翁物語』の存在に気づき、地誌を活用しながらその説話世界を考究した。本作品は仏教説話や室町物語に見られる常套的手法を含み、単調な筋立てが災いしたためか、全く注目されて来なかったと言って良い。しかし、本文を検討すると、大山固有の信仰と説話の伝播の様相が濃厚に反映されており、度重なる災害のため資料の大半を失った大山にとって、『伊豆国奥野翁物語』は往時を伝える貴重な資料であることも判明した。

西尾市岩瀬文庫にも、仏教思想を反映する資料群が所蔵されている。とくに室町物語「岩竹」（江戸前期写）については、同趣の説話が栃木県那須地方に江戸時代前期から伝承されていたこと、その基盤に天台系の修験道寺院の存在があることを突き止めた。

なお、在地伝承が室町物語へと変貌を遂げる際、室町の学芸書と近世初期の出版事情とが大きく影響を及ぼしていることも興味深い事象であった。今後、さらに考究すべき課題の一つと思われる。

法華経注には類題集所見の和歌も見出される。そのため、中世最大の類題集『夫木抄』に注目、叡山文庫等に伝存する伝本を調査した。叡山文庫本『夫木抄』は叡山の塔頭浄教

坊の旧蔵書であって、冊末には本書を書写した学僧の名が記載されている。従来、「實吉」と判読されて来たこの人名は、恐らく「實善」と読むべきであって、浄教坊の第一世その人に相違ない。叡山文庫本『夫木和歌抄』は、山内屈指の学問所「浄教坊」の学芸の一端を伝える貴重資料といえよう。實善署名を有する外典として、漢詩名句集『啓蒙対偶全集』などの伝存も明らかとなった。岩国徴古館所蔵の『鳥類八百首』もまた『夫木抄』の一伝本であるが、編纂過程で修験道の信仰が影響したと推測される。類代集は室町物語、例えば『十二類歌合』の成立にも影響を与えたことも明らかとなった。一方、法華経注には室町物語と重なる説話も多々収録されており、天台僧の営為と室町物語の成立とはパラレルな関係にあると思われる。

和歌資料と天台僧の学芸との関係については、さらに学僧実海の営為に注目した。実海は勅撰集など典拠を明らかにしながら、実証的に和歌を法華経注に引用した人物である。研究の結果、天台の高僧慈円などとの関連性も明らかとなり、その学芸の検証に繋がった。また、『説法助言抄』など、説法談義に関連深い資料の発掘と収集を行った。

このほか、調査対象としては、例えば愛媛県大洲市に残る国学者矢野玄道の旧蔵書、萩市立図書館の明倫館旧蔵書、山口県忌宮神社等々に残る仏書や天台教学に関する書承・口承資料、天台僧たちも用活用したと推測される歌集などを調査した。これらのデータを集積分析することにより、天台僧の学芸の在り様について研究を進めることができたかと思う。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計８件）

① 齋藤真麻理、横行八足-岩嶽丸のこと-、『国文学研究資料館紀要文学研究篇』36、29-64、平成 22 年（2010）、査読無

② 齋藤真麻理、字余り詠歌小考、『国文学研究資料館紀要文学研究篇』35、81-114、平成 21 年（2009）、査読無

③ 齋藤真麻理、異類の歌合と『夫木和歌抄』、『夫木和歌抄　編纂と享受』(風間書房)、217-244、平成 20 年（2008）、査読無

④ 齋藤真麻理、『鳥類八百首』解題・翻刻、『夫木和歌抄　編纂と享受』(風間書房)、573-605、平成 20 年（2008）、査読無

⑤ 齋藤真麻理、叡山文庫本『夫木和歌抄』解題・翻刻、『夫木和歌抄　編纂と享受』（風間書房）、519-572、平成 20 年（2008）、査読無

⑥ 齋藤真麻理、『鳥類八百首』解題・翻刻、『夫木和歌抄　編纂と享受』(風間書房)、573-605、平成 20 年（2008）、査読無

⑦ 齋藤真麻理、『夫木和歌抄』データベースＤＶＤについて（国文学研究資料館『本文共有化の研究』）、39-47、平成 19 年（2007 年）、査読無

⑧ 齋藤真麻理、伯耆富士と吉尾翁-『伊豆国奥野翁物語』を読む-、清文堂出版株式会社『説話論集』16、265-300、平成 19 年（2007）、査読有

〔図書〕（計３件）

① 齋藤真麻理『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅵ』（共著、東洋文庫）、平成 22 年（2010）

② 齋藤真麻理『夫木和歌抄　編纂と享受』（共著、風間書房）、平成 20 年（2008）

③ 齋藤真麻理『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅴ』(共著、東洋文庫)、平成 19 年（2007）

６．研究組織

(1)研究代表者

齋藤　真麻理（SAITOH MAORI）

国文学研究資料館・文学形成研究系・准教授

研究者番号：５０２８０５３２

(2)研究分担者

（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：